

国連NGO横浜国際人権センター・うずしおランチ T-over人権教育研究所・人権こども塾ニュース

人の世に熱あれ 人間に光あれ^⑬ ～詩「涙」の誕生～

詩「涙」の誕生

徳島県中学校同和教育研究大会公開授業を終えた生徒たちは、12月の人権週間に向けて、部落解放をテーマに作品を作った。その中で、R・Sは、両親がかつて味わった部落差別への怒りを込めて、「涙」という詩を書いた。そして、その詩は、当時、部落解放の拠点であった隣保館に長く展示されることになった。

両親への思いを語り切ったR・Sの語りについて

R・Sは、中学3年になって私が担任した生徒である。そのR・Sについては、今もお忘れられない家庭訪問がある。1991年4月、約束の時間にドアをノックすると、父親と母親、R・Sの3人が迎えてくれた。ご両親は、中学2年から始まった全体学習を通して、娘が大きく成長したことに感謝の言葉を述べられた。そして、二人が経験した結婚差別について語られた。

初対面にもかかわらず、こんなににも苦しく切ない経験を語ってくれるのかという驚きが私の中に沸き起こった。しかし、それ以上に、両親の姿を見つめ、真剣に話を聞く、R・Sの鋭い眼差しが、私の心に刻まれた。

お互いを支え合い、認め合い、尊敬し合う父と母、そこに誕生したR・Sはまさしく宝物だった。そして、二人が経験してきた結婚差別は、R・Sに絶対話すことはないことだった。しかし、それが中学2年の時に始まった全体学習の取り組みによって、家族の中で、抵抗なく語り合えるようになった。もちろん、それまでの道のりには厳しいものがあった。そのことを象徴するR・Sの語りである。

R・Sの語り

「両親の方から同和教育のことを話し掛けてきてくれるようになった」

この学習をしてきて私がはっきりと思ったことは、人を変えていくのは周りであって、自分が変わるのも周りの影響があって変わっていくんだと思いました。この学習のおかげで私たちは何かすごい絆というか、切っても切れない結び付きができたと思うし、このメンバーだったら高校へ行っても離れればなれになっても、挫けそうになったらまた会って自分のことを言い合えて支え合っていけるという自信があります。

涙

部落という言葉を知りて
心が重くなるのはなぜだろう
悲しくなるのはなぜだろう

この差別のために何人の人が苦しみ
何人の人が涙を流しただろうか
そうして何人の人が自らの生命を絶つただろうか

私は部落をつくらぬ人

また部落を差別するすべての人を
決して許さない

私たちが流した涙は

いつか川をつくるだろう

そして部落差別と大きな悲しみを
水といっしょに流してくれるだろう

どこかへ消えてしまおうだろう

私は解放の主体者として闘い続ける
部落差別解消の日まで

板野中学校 R・S